Development and evaluation of a self care program on breastfeeding in Japan

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Awano, Masayo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/28526

平成 22 年 8 月 25 日

博士論文審査結果報告書

報告番号　医博甲第2139号

学籍番号　0627022001

氏　　名　粟野　雅代

論文審査員

主　査（教授）　稲垣　美智子　印

副　査（教授）　島田　啓子　印

副　査（教授）　城戸　照彦　印

論文題名　Development and evaluation of a self care program on breastfeeding in Japan : A quasi-experimental study　（日本における母乳育児自立支援プログラムの介入による準実験研究）

論文審査結果

日本における出生１ヵ月後の母乳栄養率は50%以下である。その対策として、母親の母乳育児への自信感を高めることが報告されている。しかし、その具体的な方法は検討されていない。そこで本研究は、母親が自ら母乳育児の状態を判断できることにより、母乳育児の自信が高まり、母乳育児継続が期待できると考え、「母乳育児支援プログラム:Breastfeeding Self Care program(以下、ＢＳＣプログラムと略)」を作成し、そのプログラム介入の効果を明らかにすることを目的とした。ＢＳＣプログラムは母乳育児チェックリストを含む母親用パンフレットとＤＶＤからなり、通常の母乳育児指導に加えて行う介入である。母親に出産後（入院中）4−5日目に介入を行う。

研究対象者は、初産婦115名であり、ＢＳＣプログラム介入群53名と、通常の母乳育児指導を受ける対照群62名とした。調査は、ＢＳＣプログラム介入前として出産後４日目、介入後として出産後１か月に行った。調査項目は、母乳率と自信感であり、自記式質問紙により回答を得た。母乳自信感の測定にはDennisが開発した母乳育児自己効力感スケール BSES-SF(Breastfeeding Self−Efficacy Scale Short-Form)日本語版を用いた。

その結果、母乳率は、介入群が介入前89.7%から介入後89.7%と減少しなかったが、対照群が89.2%から64.8%へと減少した。また母乳育児自己効力感得点は、介入群が介入前34.8±1.1点から介入後49.9±0.9点であり、対照群は39.5±1.5点から46.5±1.7点であり、介入後の母乳育児自己効力感得点が介入群に有意に高い結果であった。以上より、ＢＳＣプログラムは、1ヵ月後の母乳率上昇のために有効であると結論付けた。

審査では、本プログラムの適応範囲、有効と判断可能な測定値の意味について討議されたが、出産後の入院が一般的な日本での適応であることと説明され適切であると判断した。よって本論文は、母乳育児へのケア方法を提示し、臨床および看護・助産学の発展に寄与するものとして博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。